

# 2017年度 センター試験 倫理、政治・経済（本試験） 分析

## 全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：37問	
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	● 変化なし    ○ やや易化    ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	

### 総評

「倫理、政治・経済」も6年目を迎えたが、出題内容および形式に大きな変化は見られなかった。「倫理」から50点分(解答数19)、「政経」から50点分(解答数18)と均等に出題され、「政経」も「政治」と「経済」の両分野から均等に出題されている。いずれも、単独科目の「倫理」および「政治・経済」からの抜粋である。すべての分野で、図版や資料を使用した設問が複数出題されており、「倫理」では趣旨合致問題も出題されている。加えて、地歴科よりも明らかに長い本文を読んだうえで、最大4行にも及ぶ選択肢の判断を迫られるため、高い読解力が求められる科目であることに留意しておく必要がある。さらに、各大問が複数の分野で構成されているため、巨視的な視点が欠かせない。『一問一答集』を覚えておけば大丈夫、というような学習姿勢では対応できないことを認識してほしい。なお、「倫理」分野において民主主義に関する出題があったのは、選挙権年齢の引き下げによって主権者教育の重要性が認識されているからであろう。

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	あらゆるテーマを会話文を通じて提示し、現代社会や青年期の課題を問う。	14点	美術の分野で活躍した芸術家・防衛機制・インターネット利用統計の読み取り・トクヴィルの『アメリカの民主主義』読み取り・大衆社会の順に問う。見開き2頁の史料読み取り問題が出題されたが、比較的読み取りやすいものであった。
第2問	日本思想と外来思想との関係を示すリード文を素材にして、日本思想を中心に思想の源流も問う。	18点	古代インドの思想・鎌倉仏教・日本の朱子学者・儒学・国学・柳宗悦・本文趣旨合致問題の順に問う。昨年のような古文を素材にした史料問題はなかったため、比較的解きやすかったと思われる。
第3問	知の探究に関するリード文を素材にして、西洋近現代思想を中心としつつ源流思想も問う。	18点	古代ギリシアあるいはローマの思想家・モンテーニュ・格差問題・アウグスティヌス・デューイ・現象学・本文趣旨合致問題の順に問う。突出して難しい設問はなかったが、出題頻度の低い思想家も扱われ、うまく難易度調整がなされている。
第4問	民法についてのリード文を素材に、政治・経済の各分野を幅広く問う。	22点	法体系に関する空欄補充問題・市場の特徴・経済循環に関する図版問題・主要国の議会制度・日本国憲法の制定経過と基本原理・国会・国富などの推移を示すグラフ読み取り・消費者問題の順に問う。グラフ問題は経済史の知識が必要。
第5問	政治全般についてのリード文を素材に、政治の各分野を幅広く問う。	14点	開発独裁・自由権・憲法改正手続・選挙やデモと政治とのかかわりに関するグラフ読み取り・地方自治の順に問う。問3の憲法改正手続に関する問題は時事的要素の高い出題であるが、試験会場で選択肢②の訂正が示された。
第6問	通貨制度についてのリード文を素材に、経済の各分野を幅広く問う。	14点	金融・物価変動・一般会計予算の推移を示す資料読み取り・欧州経済統合・需給曲線の読み取りの順に問う。資料読み取り問題は、公債依存度やプライマリーバランスの意味を知らないとは判別できない問題であった。